

ラテンアメリカ・カリブ全体の経済成長はプラス 4.1%と予測 国連ラテンアメリカ・カリブ経済委員会 (ECLAC)

幸 地 茂

昨年末、ECLAC の年次報告書『ラテンアメリカ・カリブ経済事前評価 2009 年』（英文： *Preliminary Overview of the Economies of Latin America and the Caribbean 2009*、西文： *Balance preliminar de las economías de América Latina y el Caribe 2009*）が発表された。この報告書は、年末時点のデータに基づき各国政府の発表に先駆けて、経済成長率などの暫定値を発表し、その年の経済情勢全般について評価したうえで、翌年のラテンアメリカ・カリブ各国の経済について予測するものである。

世界的な経済危機は、ラテンアメリカ・カリブで 2003 年から 2008 年上半期まで続いた経済成長にブレーキをかけた。今回の世界危機は、米国をはじめとする先進諸国を震源地としている点、また、ラテンアメリカ・カリブ地域がこの危機に対応できるだけの蓄えや政策能力があったという点では、過去の危機とは性格を異にしている。この地域で危機が発生するまでに続いた経済成長期（2003 年から 5 年間の GDP は平均で 4.8%）は、一定の余裕を与えた。国際経済が好調だったこの時期に、地域全体で適切なマクロ経済運営がなされた結果、対外債務が減り、外貨準備高が増加した。この「貯金」の規模は、ラテンアメリカ・カリブがかつて経験したことがない水準に達した。財政黒字という「貯金」も達成された。また、成長期に培われたマク

ロ経済運営の経験は、危機の対処に本領を発揮し、幅広い政策手段の実現を可能にした。その一方で、雇用情勢も改善された。2007 年までの 5 年間で失業率が 11% から 8% に下がったほか、社会保障にも加入できる給与所得者が増え、インフォーマル・セクターが縮小した結果、「雇用の質」でもわずかながら徐々に改善はみられた。さらに、各国政府が社会政策に力を入れていたことも注目に値する。

さて、ECLAC の事前予測によると、2009 年には地域全体の GDP はマイナス 1.8%、一人当たりの GDP はマイナス 2.9% が見込まれた（この記事が掲載される頃には同年の GDP をはじめとするマクロ経済指標が各国政府によってすでに公表されているものと思われる）。経済危機は、地域の経済成長をけん引していたエンジンを直撃し、实体经济に芳しくない影響を及ぼした。国際環境は厳しさを増した結果、輸出額が前年比 24%、輸出量は 9% 減少した。本国への「仕送り」は 10% 以上も減り、とりわけメキシコ、中米、カリブでは観光産業が大きな打撃を受け、また、海外からの直接投資は 37% も下がり、金融機関による貸し渋り等も表面化した。こうした事態に直面した各国政府は、政策金利の引き下げ、公的金融の拡充、救済策、貧困層への支援等を行い、全体として適切に経済危機に対処したと考えられる。

ECLAC によれば、地域全体の経済は 2009 年半ばの予測より早いペースで回復しており、2010 年には 4.1% の経済成長が見込まれる。経済成長が最も顕著に表れるのは、成長率 4.7% の南米と、3.7% の中米（メキシコを除く）であるとみられる。南米で筆頭に挙げられるブラジルは、成長率 5.5% を達成し、後を追う形で、5.0% のペルー、ウルグアイ、4.5% のボリビア、チリ、パナマ、4.0% のアルゼンチン、スリナムがつづくと予測される。その一方で、メキシコは、コスタリカとドミニカ共和国同様、成長率 3.5% と見込まれる。

2010 年には、地域全体の経済がさらに成長を続けることに加え、多くの主要輸出品目の国際価格が上昇することから、各国の財政健全化が進むと考えられる。このまま、経済回復が軌道に乗れば、一定の範囲内でインフレが上昇し、そのため、各国の中央銀行は、おそらく年末あたりに金融引き締めに踏み切る可能性がある。その一方で、失業率は、経済回復により 8% 近くに改善すると見込まれる。このレベルの失業率は、経済危機発生直前と経済危機発生後の中間のレベルに位置する。この失業率の改善は、「雇用の質」の改善に役立つと同時に貧困率を押し下げる効果もある。

しかし、中長期的な展望では、この経済成長を維持し続けられるかどうかには不確定要素がある。アリシア・バルセナ ECLAC 事務局長の言葉を借りれば、「危機の最悪期を脱出し、成長のエンジンは再びかかったけれど、燃料がどれくらいもつかはわからない」ということになる。経済危機は、引き続き世界経済に深刻な影響を及ぼし続けると ECLAC は強調している。その結果、ラテンアメリカ・カリブ諸国は、短期的に成長を遂げても、2003 ～ 2008 年上半期に経験した

成長を再び経験することができないとみている。

では、ラテンアメリカ・カリブが、今後、取り組まなければならない中長期的課題は何であるか。ECLAC は以下の 5 点に着目している。すなわち、①生産・貿易特化のパターンの再考、②イノベーション（変革）の推進、③知識の導入、④輸出品目の多様化、⑤アジアを中心に新しい輸出先を開拓すること。これらに加え、昔からの課題である「国家」に触れている。経済危機への対処のみならず、経済・社会開発を推し進めるためにも、国家に十分な資源と政策手段を与え、国家の役割を再定義する必要性を訴えている。

（こうち・しげる ECLAC）